メッセージ　12

主の回復の中で命の道を取る

聖書：ルツ1:16-17，20-21．2:10-16．3:1，7-13．4:9-15．マタイ7:13-14

Ⅰ．ヨシュア記、士師記、ルツ記の三巻が提示しているのは、神の行動の二つの面の明確な絵です。それは、神のエコノミー上の霊（力の霊）における神の行動と、神の本質上の霊（命の霊）における神の行動です――士13:25．14:6．ヨハネ20:22．使徒1:8．ローマ8:2：

Ａ．わたしたちは、ヨシュア、カレブ、すべての士師たちに、力における神の行動を見ます。それはサムソンによって例証されています。彼は力の霊の中で行動しましたが、命の霊の中では行動しませんでした――士14:6。

Ｂ．それとは対照的に、ルツ記は命の書です。この書の目的は、わたしたちに、力について何かを告げることではなく、ナオミ、ルツ、ボアズを模範として用いて、命の事柄を極みまで啓示することです――ルツ1:16-17，20-21．2:10-16．3:1，7-13．4:9-15。

Ｃ．主の回復の中で、わたしたちは士師たちの道を取るべきではなく、力に満ちて大きな働きを行なおうとすべきではありません。もしわたしたちが命の道を取るのではなく、力の道を取るなら、わたしたちが何を成し遂げても、それは無意味です。

Ｄ．命だけがキリストを生み出すことができることを、わたしたちが見ることは、極めて重要です――ルカ1:35：

１．命だけが、神を人性の中へともたらし、キリストを生み出し、キリストを供給し、キリストを全人類に供給することができます――マタイ1:18，20-21。

２．このことは、ルツとボアズによって、すなわち命の道を取った、命の人によって成し遂げられました。

Ⅱ．神の命の神聖で永遠の性質によれば、神の命は唯一の命です。神の命だけが、命と考えることができます――ヨハネ1:4．10:10後半．11:25．14:6：

Ａ．命は奥義的です。なぜなら、命は神ご自身であるからです――ヨハネ1:1，14．5:26．エペソ4:18：

１．神聖な命は、第一の、基本的な神の属性と考えられます――エペソ4:18．ヨハネ5:26．Ⅰヨハネ5:11-12．ローマ8:2。

２．命は神の内容であり、神の流れ出です。神の内容は神の存在であり、神の流れ出は、神ご自身を命としてわたしたちに分け与えることです――エペソ4:18．啓22:1。

３．命はキリストです。また命は、わたしたちの中に生きて、わたしたちから生かし出されるキリストです――ヨハネ14:6．コロサイ3:4．ガラテヤ2:20．ピリピ1:21前半。

４．命は聖霊です――ヨハネ14:16-17．Ⅰコリント15:45後半．ローマ8:2．Ⅱコリント3:6。

５．命は、わたしたちの中へと分与された、またわたしたちの中に生きている、手順を経て究極的に完成された三一の神です――ヨハネ1:14．7:37-39．20:22．ロー

マ8:10，6，11。

B．神が人をご自身のかたちに、またご自身の姿にしたがって創造した目的は、人が神を命として受け入れ、人が命の人、神・人となって、神の属性を表現するようになることでした――創1:26．2:9。

Ⅲ．わたしたちは、善悪知識の木の意義を認識し、この木から命の木へと完全に向きを変える必要があります――創2:9，16-17：

A．命の木が表徴しているのは、三一の神がキリストの中で、ご自身を食物の形で彼の選ばれた人の中へと命として分与するということです――創2:9。

B．新約は、キリストが命の木の型の成就であることを啓示しています――ヨハネ1:1，4，14．11:25．14:6．15:1，5：

1．ヨハネ第1章4節はキリストについて語って、「彼の中に命があった」と言います。これは、命の木によって表徴される命を指しています。

2．創世記第2章に描写されている命は、キリストにおいて肉体と成った命です――Ⅰヨハネ5:11-12．ヨハネ1:1，4，14。

3．わたしたちはヨハネ第1章4節と第15章5節を一緒にするなら、ご自身が命であり、またぶどうの木でもあるキリストが命の木であることを認識します。

C．善悪知識の木は、人にとって死の源であるサタンを表徴します――ヘブル2:14：

1．善悪知識の木はまた、神以外のすべての事柄を表徴します。

2．神ご自身でないどのようなものも、良い事柄や聖書的で宗教的な事柄さえも含めて、こうかつな者であるサタンによって利用されて、召会の中に死をもたらす可能性があります――マタイ16:18．箴16:25．18:21。

D．ヨハネ第4章、第8章、第9章、第11章には、命が善悪に相対するという原則を説明する四つの事例があります：

1．わたしたちは善悪を顧慮するのではなく、命を顧慮すべきです――ヨハネ4:10-14，20-21，23-24．8:3-9．9:1-3．11:20-27。

2．物事を識別する最上の方法は、正しいか間違っているか、善であるか悪であるかにしたがってではなく、命であるか死であるかにしたがって識別することです――ローマ8:6．Ⅱコリント11:3。

Ⅳ．キリストはわたしたちの命です――コロサイ3:4：

A．神の命はキリストの命であり、キリストの命はわたしたちの命となりました――コロサイ3:4．ヨハネ5:26：

1．キリストがわたしたちの命であることは、彼がわたしたちにとって極みまで主観的であることを意味します――ヨハネ1:4．14:6前半．10:10後半．Ⅰコリント15:45後半．ローマ8:10，6，11。

2．人を、その人の命から分離することは不可能です。なぜなら、人の命は、その人自身であるからです。こういうわけで、キリストがわたしたちの命であると言うことは、キリストがわたしたちとなっていること、またわたしたちが彼と一つの命と生活を持っていることを意味します――ヨハネ14:6前半．ピリピ1:21前半。

B．キリストがわたしたちの命であるという真理は、わたしたちが彼を命とし、日常生活の中で彼を生きるべきであることを、強く示しています――コロサイ3:4．ヨハ

ネ6:57：

1．キリストは実際的に、経験的にわたしたちの命とならなければなりません。日々わたしたちは彼の命の中で救われる必要があります――コロサイ3:4．Ⅰコリント15:45後半．ローマ5:10。

2．新しい人は、わたしたちがキリストを命とし、彼を生きることの自然な結果です――コロサイ3:3-4，10-11。

Ⅴ．神の御前でのわたしたちの生活と働きには、二つの道があり得ます。それは、命に至る道と崩壊に至る道です――マタイ7:13-14：

A．わたしたちは、命に至る道を歩むために、狭い門から入り、それから狭められている道を歩む必要があります――マタイ7:13-14：

1．狭い門は、外側の行為だけを取り扱うのではなく、内側の動機までも取り扱います。

2．古い人、自己、肉、人の観念、この世とその栄華はすべて排除され、神のみこころに合うものだけが入ることができます――マタイ7:21．12:50。

3．まず、わたしたちは狭い門から入り、次に狭められている道を歩む必要があります。その道は生涯にわたるものであり、命に導きます――マタイ7:14。

4．マタイ第7章14節の「命」という言葉は、王国の永遠に祝福されている状態のことを言っており、この王国は神の永遠の命で満たされています。この命は、今日、王国の実際の中にあり、来たるべき時代には、王国の実現の中にあります――マタイ19:29．ルカ18:30。

B．幅広い道は、この世の体系にしたがっており、天然の味わいを満足させ、群衆を得て、人の業績を維持し、人の事業を達成します。幅広い道が至る崩壊は、人の滅びを指しているのではなく、人の行為と働きの崩壊を指しています――Ⅰコリント3:15．マタイ13:31-33．啓2:13，20．17:4-5。

C．主の回復の道は、命の道であり、来たるべき時代の天の王国の実現において、命の中の生ける褒賞へと至ります――詩16:11．エレミヤ21:8．マタイ19:29．ルカ18:30．Ⅰコリント3:13-15．15:58。

Ⅵ．わたしたちは、命の感覚によって生きる必要があります。命の感覚とは、わたしたちの内側の神聖な命の感覚、知覚です――ローマ8:6．エペソ4:18-19：

A．命の感覚の源は、神聖な命、命の法則、聖霊、わたしたちの中に住むキリスト、わたしたちの中で活動する神です――ローマ8:2，10-11．ピリピ2:13。

B．神聖な命は最高の命であり、最も豊かで、最も強く、最も鋭敏な感覚を持っています。この感覚が命の感覚です――エペソ4:18。

C．命の感覚はわたしたちを導き、支配し、制御し、方向づけ、わたしたちが神聖な命の中で生きているか、それとも天然の命の中で生きているか、またわたしたちが肉の中で生きているか、それとも霊の中で生きているかを知らせます――ローマ8:6。

Ⅶ．わたしたちは、召会に対する死の攻撃に勝利し、キリストの復活の命の中で、キリストのからだを建造する必要があります――マタイ16:18．ヨハネ11:25．エペソ1:22-23．4:16：

A．わたしたちは、わたしたちの霊の中のキリストの復活の命によって、召会に対する

死の攻撃に勝利することができます――マタイ16:18．使徒2:24．Ⅱテモテ1:10：

1．エデンの時以来、神とサタンとの争いは、死と命との問題です――ローマ8:6，10-11．ヘブル2:15。

2．マタイ第16章18節は、どの源から召会に対する攻撃が来るかを見せています。それは「ハデス［陰府］の門」、すなわち、死です。サタンの特別な目的は、死を召会の中で拡大させることです。サタンが召会に関して最も恐れるのは、召会が彼の死の力に抵抗することです――啓2:8，10-11。

B．わたしたちは霊の中で訓練されて、キリストの復活の命の中で、キリストのからだを建造すべきです――エペソ2:6，21-22．4:16．啓1:18．2:8．ピリピ3:10：

1．キリストのからだとしての召会の性質は復活であり、復活の実際は命を与える霊としてのキリストです――ヨハネ11:25．使徒2:24．エペソ1:19-23．Ⅰコリント15:45後半。

2．わたしたちは、内側の神聖な命によって生きるとき、復活の中で生活しており、キリストのからだを建造します――ピリピ3:10-11．エペソ4:15-16．コロサイ2:19．3:15。

Ⅷ．「わたしたちは死から命へと移っていることを知っています．なぜなら、わたしたちは兄弟たちを愛しているからです」――Ⅰヨハネ3:14前半：

A．死は、悪魔、神の敵サタンからであり、死をもたらす善悪知識の木で表徴されます――創2:9，17。

B．命は、神、命の源からであり、命という結果になる命の木で表徴されます――創2:9，16-17。

C．死と命は、二つの源、すなわちサタンと神からであるだけではなく、二つの本質、二つの要素、二つの領域でもあります――ヨハネ5:24。

D．死から命へと移るとは、死の源、本質、要素、領域から、命の源、本質、要素、領域へと移ることです。このことは、わたしたちの再生の時に起こりました――Ⅰヨハネ3:14前半．ヨハネ3:3，5，15。

E．わたしたちは、死から命へと移っていることを知っています。すなわち、その内なる知覚を持っています。なぜなら、わたしたちは兄弟たちを愛しているからです。兄弟たちに対する愛（神の愛）は、このことの強い証明です――Ⅰヨハネ3:14前半：

1．主にある信仰は、わたしたちが死から命へと移る道です。兄弟たちに対する愛は、わたしたちが死から命へと移った証明です――ヨハネ5:24．Ⅰヨハネ3:14前半。

1．信仰を持つとは、永遠の命を受けることです。愛するとは、その永遠の命によって生き、それを表現することです――ヨハネ3:15，36．Ⅰヨハネ3:11，14-18．4:7-12，16，19-21。

© 2021 Living Stream Ministry